

特定外来生物

ブルーギル

硬骨魚綱 スズキ目 サンフィッシュ科 *Lepomis macrochirus*生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

基礎情報

原産地

・北アメリカ東部

現在の分布

- ・世界各地に移入され定着している。
- ・国内では、北海道から沖縄まで全国各地に分布している。
- ・県内では、三河地方の山間部や一部の市町村を除き、河川や池沼に広く定着している。山間部のダム湖にも生息する。

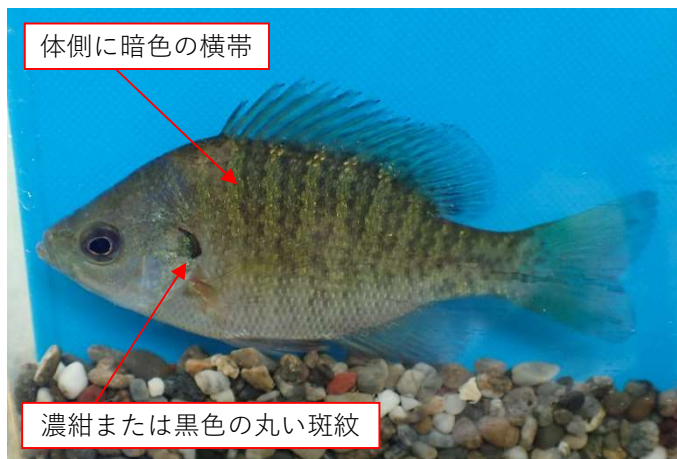


侵入の経緯

- ・1960 年に移入され、水産増殖を目的として各地の養魚施設等に運搬された。
- ・1960～70 年代に水産目的で琵琶湖から全国の河川に放流されたアユなどに混じり全国に拡散した。
- ・オオクチバスと共に釣りの対象魚として意図的に野外に放流され、急速に分布を拡大した。
- ・本県では、1970 年代後半から矢作川水系で見られるようになったが、侵入の経緯は不明である。

形態

- ・全長 25cm。体高が高く、口が小さい。体側には 7～10 本の暗色横帯がある。
- ・生後約 1 年目までの幼魚は体形がやや細いが、成長するにつれて体高が高くなる。体色は濃灰褐色から暗褐色に黒ずみ、横帯はやや不明瞭になってくる。
- ・えらぶたの後端に濃紺または黒色の丸い斑紋がある。



成魚



稚魚



幼魚

生息環境

- ・池沼、ダム湖、堀、ため池、公園の池、河川の中下流域などに生息し、池沼では主に沿岸帯の水生植物帯に、河川でも主に流れの緩やかな水草帯に生息する。
- ・河川の護岸や人工漁礁にもよく集まり、隙間のある構造物の周辺を好む。

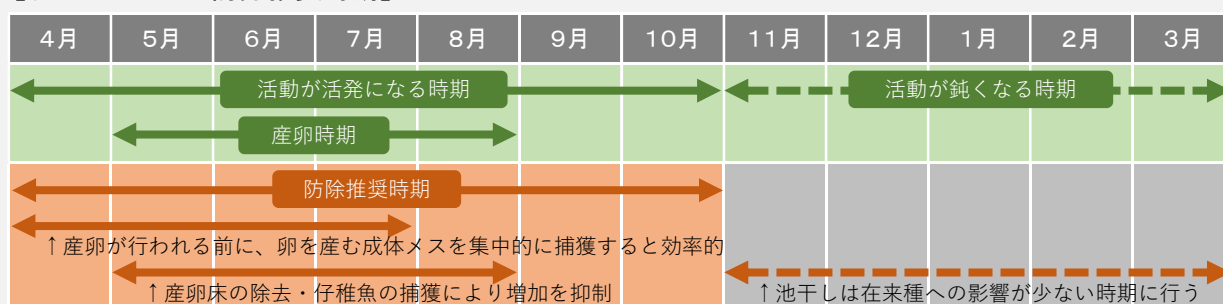
生態・ライフサイクル

- ・雑食性であり、魚類(特に魚卵)、水生昆虫、貝類、動物プランクトン、植物などを食べる。
- ・表面水温が 20℃を超える 5～8 月頃に繁殖する。岸近くの浅場に群れ、オスが砂礫底にすり鉢状の産卵床を掘り、そこで産卵が行われる。産卵後はオスが産卵床を守り、卵からふ化した仔魚が稚魚になる寸前まで 7～10 日程度保護する。
- ・卵は沈性付着卵であり、直径は 0.9～1.3mm。1回の産卵数は平均的なサイズの個体で 21,000～36,000 粒。一産卵期に何回も産卵を行う。
- ・全長は 1 年で約 5cm、2 年で 8cm に達し成熟する。オスは全長 12cm ほどに成長すると「縄張りオス」として産卵床が持てるようになる。寿命は最長で 10 年。



産卵床を守るオス

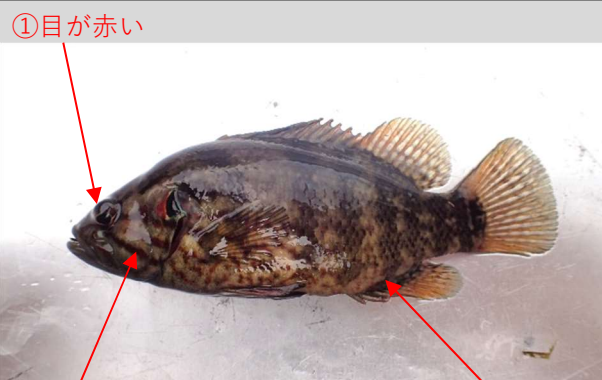
【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

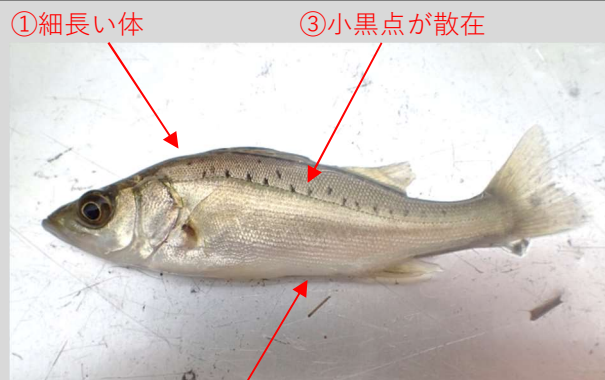
- ・類似種として、オヤニラミ(本県では国内移入種として一部の河川に定着)がいる。
- ・海域および河川の中～下流域に生息する在来種のスズキ(セイゴ)もやや本種に似る。

オヤニラミ (本県では国内移入種)



- ①目が赤い
②目の後ろに赤い筋
③体側に暗色の横帯
- ①目が赤い。
②目の後ろに赤い筋が放射状に数本入る。
③体側の暗色横帯は 6～7 本。

スズキ (在来種、海域および河川下流域に生息)



- ①細長い体
②小黒点が散在
③体側から腹部にかけて銀白色
- ①体は全体的に細長く、体高は高くない。
②体側から腹部にかけて銀白色。
③背側や背ビレに小黒点が散在する個体もある。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・各地の池沼やため池などで優占種となっており、捕食により魚類、昆虫類、貝類、動物プランクトン、植物など、様々な生物に被害を及ぼす。
- ・滋賀県瀬田月輪大池では本種が急増した時期にモツゴが激減しており、これはブルーギルによるモツゴの卵・仔稚魚および成魚の捕食や餌をめぐる競争がモツゴの減少をもたらしたためと推察されている。
- ・水産有用種への食害や、本種が多く生息する湖沼では多数混獲されて操業に支障をきたすなどの漁業被害も報告されている。

生息・被害の確認方法

- ・水際を踏査し、水面近くを泳ぐ個体を目視確認する。水面から見るとヒレは青白く見え、えらぶた後端の濃紺色が目立つ。双眼鏡等を併用するとよい。
- ・産卵時期に岸近くの浅い水底で産卵床を確認する。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。釣果の投稿サイトを調べることも有効。
- ・地域の住民、釣り人、漁業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



水面近くを泳ぐブルーギルの群れ

防除方法

- ・本種を他の場所に放さないよう周知を徹底するとともに、釣り、ワナ、網、電気ショッカー、池干し等により捕獲する。
- ・産卵床の攪乱、卵の採取、産卵床を守る親魚の捕獲など、繁殖を妨害して個体数を減らす。

推奨時期

- ・水温が上がり活動が活発になる4～10月（水温が低い冬はほとんど活動しなくなる）
- ・産卵が行われる前（春～夏）に捕獲を実施すると、卵を産む成体メスを集中的に捕獲できる。
- ・産卵時期（5～8月）に産卵床の攪乱、卵の採取など、繁殖を妨害して個体数を減らす。

具体的な防除方法

①個体の捕獲

- ・釣り（ルアー釣りよりエサ釣りの方が効率がよい）、ワナ（アイカゴ、アナゴワナ、小型かごワナ、セルびんなど）、網（刺網、投網、地引網、たも網、さで網など、55ページを参照）、電気ショッカー（可搬式、ショッカーボート）等により捕獲する。池沼では同時に池干しを行うと根絶の可能性が高くなる（47ページを参照）。
- ・捕獲した個体は原則としてその場で殺処理する。殺処理の方法として、氷締め、陸上での窒息、地中への埋設、物理的な殺処理などがある。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄する（各自治体の基準に従う）。食用とすることも可能だが、寄生虫対策として加熱処理が推奨される。

②繁殖の妨害

- ・産卵床に産卵された卵を取り除く、ふ化直後の仔稚魚をたも網等ですくい取る。
- ・人工産卵床を設置し、産卵された卵を駆除する（59ページを参照）。
- ・小型3枚網を産卵床を横断するように設置し、産卵床を守るオス親を捕獲する。



ブルーギルの産卵床

【ワナの種類】(他にも様々なタイプのワナがある)

アイカゴ



- ・遮光シートで上部を覆う。
- ・魚が物陰に集まる性質を利用しているため、エサがなくても捕獲できる。
- ・混獲された在来カメ等が溺れないよう、完全に水没させないように設置する。

アナゴ
ワナ

- ・中のエサ袋にエサ(市販のねりエサ、冷凍オキアミ等)を入れ、入口が流れの上下流方向に向くよう設置する。
- ・混獲された在来カメ等が溺れないよう、完全に水没させないように設置する。

小型
かごワナ

- ・稚魚、幼魚の捕獲に用いる。
- ・中のエサ袋にエサ(市販のねりエサ等)を入れ、流れの下流側に入口が向くよう設置する。

セルビン



- ・稚魚、幼魚の捕獲に用いる。
- ・中にエサ(市販のねりエサ等を団子にしたもの)を入れ、流れの下流側に入口が向くよう設置する。

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(行う場合は手続等が必要)である。
- ・背ビレ、腹ビレ、尻ビレに鋭いトゲがあり、体表にぬめりがあるため、手でつかむ際には保護手袋(軍手等)を着用する。
- ・本種が生息する池には、水草や枯れ枝に引っかかったルアーやワーム、切れた釣り糸などが放置されていることがあるため、これらでケガをしないよう注意し、可能な限り回収する。
- ・触った後は必ず石けんなどを使って十分に手洗いを。



放置されたルアー

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 魚類 > ブルーギル(国立研究開発法人 国立環境研究所)
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50310.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > ブルーギル(環境省 自然環境局)
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-sa-05.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集(環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 魚類(環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/5hp_gyorui.pdf
- ・オオクチバス等の防除の手引き(改訂版)(環境省 自然環境局,2014)
- ・だれでもできる外来魚駆除 3～オオクチバス、コクチバス、ブルーギルの最新駆除マニュアル～(水産庁・国立研究開発法人水産研究教育機構・全国水面漁業協同組合連合会,2021)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021(愛知県,2021) p.68 ブルーギル(谷口義則・鳥居亮一)

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物